

令和8年用りんご病害虫防除基準

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	10a当たり散布量	注意事項(収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴	
黒星病	～① 発芽10葉日初後期	1. 水(99ℓ)				1. モモチョッキリゾウムシが多い園は、マトリックE W劇2,000倍(30日前まで、2回以内)を使用してもよい。 2. ハーベストオイルに替えてスプレー油100倍(展葉期(発芽後2週間まで)、一)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 0	
		2. ハーベストオイル100倍(1ℓ)	展葉期(発芽後2週間まで)	一				
		3. ベルクート水和剤2,000倍(50g)	前日まで	6回以内	350ℓ			
		4. トップジンM水和剤1,000倍(100g)	前日まで	6回以内				
		5. アプロードフロアブル1,000倍(100mℓ)	30日前まで	2回以内				
	特別	黒星病	1. ストライド顆粒水和剤1,500倍(66g)	開花前まで	2回以内	350ℓ	1. ストライド顆粒水和剤に替えて、I Cボルドー412 30倍(一、一)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 0
		褐斑病	1. トレノックスフロアブル500倍(200mℓ)	30日前まで	5回以内		1. 摘花剤としてエコルーキー100～150倍(満開日、追加散布を要する場合は2～3日後に1回、2回以内)を単用で使用できる。 2. シンクイムシ類の発生の多い園では、4月下旬にコンフューザーNを150～200本/10a設置する(下記「交信かく乱剤」参照)。	散布日 月 日 散布量 0
		黒星病	2. カナメフロアブル劇4,000倍(25mℓ)	前日まで	3回以内	400ℓ		
		ハマキムシ類	3. サムコルフロアブル105,000倍(20mℓ)	前日まで	3回以内			
	③ 落花直後	黒星病	1. ペンコゼブ水和剤500倍(200g)	30日前まで	3回以内		1. クレフノンに替えて、バイカルティ1,000倍を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 0
		黒星病	2. ミギワ20フロアブル4,000倍(25mℓ)	前日まで	3回以内			
		アブラムシ類	3. ウララD F2,000倍(50g)	14日前まで	2回以内	500ℓ		
			4. クレフノン100倍(1kg)					
点防除	④ 落花10日後	黒星病	1. デランフロアブル劇2,000倍(50mℓ)	60日前まで	3回以内			散布日 月 日 散布量 0
		うどんこ病	2. スコア顆粒水和剤3,000倍(33g)	14日前まで	3回以内	600ℓ		
		シンクイムシ類	3. ダントツ水溶剤2,000倍(50g)	前日まで	3回以内			
		シンクイムシ類	4. クレフノン100倍(1kg)					
	⑤ 落花20日後	黒星病	1. ペンコゼブ水和剤500倍(200g)	30日前まで	3回以内		1. この時期は毛ぶるい期に入り、サビ果が出やすいので、乾きやすい時間帯に散布する。 2. クレフノンに替えて、バイカルティ1,000倍を使用してもよい。 3. アブラムシ類、リンゴワタムシの発生している園ではトランスマーフロアブル2,000倍(前日まで、3回以内)を散布する。 4. 腐らん病対策として摘果痕からの感染を防止するため、摘果後にトップジンM水和剤1,500倍(前日まで、6回以内)またはベンレート水和剤2,000倍(前日まで、4回以内)を枝幹部にも十分かかるよう散布する。	散布日 月 日 散布量 0
	斑点落葉病	2. ポリオキシンAL水和剤1,000倍(100g)	3日前まで	3回以内	600ℓ			
	シンクイムシ類	3. アグロスリン水和剤劇1,000倍(100g)	前日まで	2回以内				
		4. クレフノン100倍(1kg)						
⑥ 6月 10日頃	炭黒星病	炭黒星病	1. デランフロアブル劇2,000倍(50mℓ)	60日前まで	3回以内		1. ヒメボクトウの発生が多い園では6月上旬にボクトウコン-Hを100～150本/10a設置する。なお、3年以上連続して使用することで効果が安定する。 2. 極早生品種のある園では、デランフロアブルに替えてペンコゼブ水和剤500倍(30日前まで、3回以内)を使用してもよい。 3. カメムシ類の発生が多い園ではモベントフロアブルに替えてモスピラン顆粒水溶剤劇2,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 0
		斑点落葉病	2. パレード15フロアブル2,000倍(50mℓ)	前日まで	2回以内	600ℓ		
		アブラムシ類	3. モベントフロアブル2,000倍(50mℓ)	14日前まで	3回以内			
			4. バイカルティ1,000倍(100g)					

耕種的防除

全般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。 3. 病害虫は樹上の粗皮や芽の付近に越冬するものが多いので、効率防除を図るため、休眠期防除前に粗皮削りを行なう。
炭輪そ紋病	1. 園周辺のニセアカシヤやクルミ等は、伝染源になるので除去する。 2. 樹勢が弱いと発生しやすいので、樹勢の維持に努める。 3. 休眠期にいぼ皮病斑を削り取り、削り取った病害虫は適切に処理する。
黒星病	1. 発病した葉や果実は、見つけしだい摘み取り、適切に処分する。
ナシマルカイガラムシ	1. 園周辺の雑木は、寄種(伝染源)になるので除去する。

交信かく乱剤(シンクイムシ・ヒメボクトウ対策)

対象病害虫	薬剤名	使用方法
モモシンクイガナシヒメシンクイリンゴモンハマキ	コンフューザーN	4月下旬にコンフューザーNを150～200本/10a設置し、7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置する。
ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	
ヒメボクトウ	ボクトウコン-H	6月上旬に100～150本/10a設置する。なお、3年以上連続して使用することで効果が安定する。

1. 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、園内均一に設置する。
2. 傾斜上部の設置割合を1～2割多くする。
3. 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
4. 防風ネットなどを利用する。
5. 高温時は成分の揮発が早いので、必要に応じて追加設置する。

りんご施肥基準(成木: 10a当たり)

品種・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
つがる(3,600kg)	フレッシュフルーツ有機80	60～80kg	9月下旬	3.6～4.8	1.8～2.4	1.2～1.6
ふじ(3,600kg)	フレッシュフルーツ有機80	40～80kg	10月上旬	2.4～4.8	1.2～2.4	0.8～1.6

落果防止剤の使用について

落果防止剤	使用時期	注意事項
ヒオモン水溶剤	2,000倍 2回以内	収穫開始予定 21～4日前 単用で散布する。

発行：JAさがえ西村山・さがえ西村山りんご部会

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	10a当たり散布量	注意事項(収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴																									
⑦ 6月 20日 頃	斑点病 褐輪葉病 黒星病 病	1. パスポート顆粒水和剤 1,000倍 (100g)	45日前まで	3回以内	600ℓ	1. 殺ダニ剤を使用する場合は、4日前までに草刈りを終了する。除草剤を使用する場合は殺ダニ剤散布の1週間前までに終わらせる。	散布日 月 日 散布量 ℓ																									
	シンクイムシ類 キンモンホソガ	2. エクシレルS E 5,000倍 (25mℓ)	前日まで	3回以内																												
	ハダニ類	3. ダニオーテフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	1回																												
		4. バイカルティ 1,000倍 (100g)																														
⑧ 7月 上旬		1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)			600ℓ	1. ナシヒメシンクイの多い園では7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置する。 2. ヒメボクトウの被害がみられる園では、7月上旬頃フェニックスフロアブル4,000倍(前日まで、2回以内)を枝幹部に十分かかるようていねいに散布する。また、ロビンフッド(前日まで、5回以内)を樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する。 3. ツインバリアー水和剤に替えてナリアWDG2,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																									
	斑点病 褐輪黒炭 葉病	2. ツインバリアー水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで	3回以内																												
	シンクイムシ類 シンゴワタムシ	3. ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内																												
		4. バイカルティ 1,000倍 (100g)																														
⑨ 7月 中旬		1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)			600ℓ	1. 褐斑病が多い園は、ICボルドー412 30倍(一、一)を使用してもよい。ICボルドー412を使用する際は、単剤で展着剤は加用しない。 2. 敷の際は褐斑病防除の為に防除間隔を10日以上空けないようにする。	散布日 月 日 散布量 ℓ																									
	斑点病 褐輪黒炭 葉病	2. ドキリンフロアブル 800倍 (125mℓ)	14日前まで	4回以内																												
	褐斑病	3. ユニックス顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	14日前まで	4回以内																												
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 アラムシ類	4. オリオン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで	2回以内																												
		5. バイカルティ 1,000倍 (100g)																														
品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。																																
⑩ 7月 下旬		1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)			600ℓ	1. ビターピット対策として、バイカルティ1,000倍を加用してもよい。 2. 極早生に使用する場合は、収穫前使用日数に注意する。または、オキシラン水和剤に替えて、オーソサイド水和剤80 800倍(前日まで、6回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																									
	斑点病 褐輪黒炭 葉病	2. オキシラン水和剤 700倍 (142g)	14日前まで	4回以内																												
	褐斑病	3. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	7日前まで	3回以内																												
	シンクイムシ類 カメムシ類 キンモンホソガ リンゴワタムシ	4. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内																												
特別		1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)			600ℓ	1. 降雨が続く場合は追加で散布する。 高温・乾燥が続く場合は、日焼け軽減・果点荒れ対策を目的にサンバリア1,000倍を加用して散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ																									
	斑点病 褐輪黒炭 葉病	2. ドキリンフロアブル 800倍 (125mℓ)	14日前まで	4回以内																												
⑪ 8月 上旬	斑点病 褐輪黒炭 葉病	1. ダイパワー水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで	開花期以降 3回以内	600ℓ	1. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。 <table border="1"><tr><th>薬剤名</th><th>希釈倍率</th><th>収穫前使用日数</th><th>総使用回数</th><th>使用時期</th></tr><tr><td>スターマイトフロアブル</td><td>2,000倍</td><td>前日まで</td><td>1回</td><td>○</td></tr><tr><td>カネマイトフロアブル</td><td>1,000倍</td><td>7日前まで</td><td>1回</td><td>○</td></tr><tr><td>オマイト水和剤</td><td>750倍</td><td>3日前まで</td><td>1回</td><td>○</td></tr><tr><td>アカリタッチ乳剤</td><td>3,000倍</td><td>前日まで</td><td>—</td><td>○ ○</td></tr></table> ※アカリタッチ乳剤は、殺卵効果が無く、残効性も期待できないので、5~7日間隔の連続2回散布や、他剤とのローテーションで使用する。	薬剤名	希釈倍率	収穫前使用日数	総使用回数	使用時期	スターマイトフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	○	カネマイトフロアブル	1,000倍	7日前まで	1回	○	オマイト水和剤	750倍	3日前まで	1回	○	アカリタッチ乳剤	3,000倍	前日まで	—	○ ○	散布日 月 日 散布量 ℓ
薬剤名	希釈倍率	収穫前使用日数	総使用回数	使用時期																												
スターマイトフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	○																												
カネマイトフロアブル	1,000倍	7日前まで	1回	○																												
オマイト水和剤	750倍	3日前まで	1回	○																												
アカリタッチ乳剤	3,000倍	前日まで	—	○ ○																												
キンモンホソガ シンクイムシ類 ハマキムシ類 (ギンモンハモリガ)	2. アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで	2回以内																													
ハダニ類	3. コロマイト乳剤 1,000倍 (100mℓ)	前日まで	1回																													
⑫ 8月 月中旬	斑点病 褐輪黒炭 葉病	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	前日まで	3回以内	600ℓ	2. ビターピット対策として、ストピットII 500倍を8月上旬以降2~3回加用散布してもよい。 3. ファンタジスタ顆粒水和剤に替えてプリントフロアブル25 2,000倍(前日まで、4回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																									
	シンクイムシ類 (キンモンホソガ)	2. バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内																												
⑬ 9月 上旬	斑点病 褐輪黒炭 葉病	1. ダイパワー水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで	開花期以降 3回以内	600ℓ	1. リンゴワタムシ対策として、トランスマフォームフロアブル2,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																									
	シンクイムシ類	2. テッパン液剤 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	2回以内																												
⑭ 9月 月中旬	斑点病 褐輪黒炭 葉病	1. オーソサイド水和剤 800倍 (125g)	前日まで	6回以内	600ℓ	1. スカウトフロアブルに替えて、ロディー水和剤1,000倍(前日まで、2回以内)を使用してもよい。 2. オーソサイド水和剤80に替えて、ナリアWDG2,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																									
	シンクイムシ類	2. スカウトフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	5回以内																												
⑮ 10月 上旬	褐斑病 黒星病 葉病	1. ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花から前日まで	3回以内	600ℓ	1. 高温時の散布は薬害の危険があるので、気温の低い時に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ																									

り
ん
ご